

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370104855		
法人名	社会福祉法人 リデルライトホーム		
事業所名	グループホーム カムさあ		
所在地	熊本県熊本市北区龍田陳内3丁目37-7		
自己評価作成日	令和5年2月	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年2月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は社会福祉法人リデルライトホームが運営しています。カムさあの基本理念は「その人らしく」「自己決定」「自己実現」「だれからも拘束されない」を掲げています。その方らしく生きることの出来る施設運営に取り組んでいます。我が家のようにくつろげ、最後までその人らしく生きることを支援しながらも、ご家族との絆を大切にすることをケア理念としています。ご本人のペースで自分らしく暮らして頂ける様、主治医と連携を図りながら取り組んでいます。併設事業に児童の放課後等デイサービス事業所があり、昼食は知的障がい者の施設に委託しており、地域共生社会の実現を目指しております。入居者も支援される側ではなく、児童を見守り支援する側の役割を持ってもらうことで世代間交流や支え合いが可能となりました。どの様な障がいがあっても住み慣れた地域で最後まで尊厳のある暮らしが出来るよう支援してまいります

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の訪問でも手入れの行き届いたホーム内は柔らかな雰囲気にも包まれ、全職員が高い志を持って、ケア理念“最後までその人らしく生きることを支援しながら、家族との絆を大切に”を実践されていることを改めて確認する事が出来た。殆どをベッドで過ごすという重度化傾向にある方の居室には、馴染みの音や歌声が耳に入りやすい位置にラジオが置かれ、おしゃれが大好きな方には季節の衣服がきれいに下げられていたり、視界に入る位置への家族や思い出の写真の掲示など、その方らしい時間を過ごしてもらえ心配りがなされている。また、自由に身体を動かすことが出来ないからこそ“寝姿”に十分心を配りたいとしている。家族からの信頼の厚さも伝わってくる。管理者は開設当初の入居者が残した「一生懸命生きたら一生懸命死ぬる」の言葉を宝物として、入居者との関わりの中にも活かしており、“入居者の人となり現在のホームを作っている”といっても過言ではなく、心温かくなるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を念頭に置き、入居者・ご家族及び地域の方々へ接している。理念は、目にしやすい場所に掲示している。それぞれの多様な暮らしを理解し、自立支援の観点から自己決定の出来る支援を目指し実践している。	長い歴史の中で育まれてきた「愛と奉仕の精神」を継承し、高齢者や児童、障がい者が世代間交流を通じてそれぞれの役割を担い、共に生きるコミュニティ(地域共生社会)を目指している。互いの生き方を尊重し、否定せず「その人らしく」暮らし続けることを家族や地域の力を借りながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、運営推進会議や行事など開催が難しく制限されるが、可能な範囲で地域の方々との交流を模索し実践している。災害時は地域を支援できるよう校区社協とも連携を図り支援している。回覧板を渡したり、日頃より挨拶や交流を行っている。	コロナ禍により長年続いていた地域行事なども中止されているが、回覧板や取引業者などからの地域情報を収集し、ホーム運営に反映させている。併設する放課後等デイサービス事業所を利用する子どもたちの「ただいま～！」の声とともにホーム内は活気を増し、学校での出来事に耳を傾ける入居者の何とも言えない表情が日常となっている。	コロナ禍前の地域との餅つき会なども行いたいとしており、感染症終息後の取組が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため直接出向く機会は少ないがwebの活用など、地域の中で自分らしく暮らし続けられるよう支援を行っている。また、地域の方々との認知症の方への支援のあり方など話し合っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催が難しい状況にあった。自治会長や民生委員さんへは報告書にて事業所の取り組みを報告し、サービス向上に繋げている。	管理者はコロナ終息後を見据えてこれまでの活動を再開するにあたり、運営推進会議を活用したいとしている。ホームの現状は参加者に報告され、コロナ感染症に対する施設内療養時の対応について、手引書なども同封し、ホームの取組を発信している。	直接開催に向け、参加関係者との連携や年間を通し議題として取り上げたい内容を収集するなど今後の取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの定期的な連携と運営面での確認など市町村担当者と協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括センターとの連携によりホームの現状を共有している。認定調査には居室にて職員が立ち会い、入居者の現状を正確に伝えられている。事故発生については速やかに行政に報告するとともに、再発防止に向けた検討会を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	web研修等によりスキルアップを行っている。具体的な行為について、正しい理解に努め、常に意識しながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。法人においても委員会での情報共有に努めている。	身体拘束や虐待について、オンライン研修や法人の身体拘束委員会での情報共有に努めている。「私たちはなぜ虐待をしてしまうのか」をテーマに虐待について認識を新たにし、食事の入居者の姿勢について、内臓を曲げたまま食事を摂ってもらうことのないように配慮するなど看護師としての視点が活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、理解促進とスキルアップを行っている。上記同様具体的な内容や不適切ケアについて話し合うなど虐待防止に向けた理解促進と実践を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学びの機会を設け理解に努めている。必要時制度の活用が出来るよう学びを深めている。フォーマルな社会資源として関係機関との連携にも努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する契約時は、ご本人ご家族が安心して入居いただけるよう十分な時間をとり説明を行っている。重要事項の変更時なども、十分な説明を行い契約書もしくは変更合意書を取り交わしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様の要望は日々暮らしの中で迅速に対応出来るよう努めている。ご家族様のご意見は面会時等ご意見を聞くよう心掛け職員間での共有に努めている。	心優しく個性豊かな入居者の方々であり、“3日起きて3日寝る”を繰り返す方、「私のリハビリです！」と毎日欠かさず洗濯物干しとたたみに精を出される方など、普段から入居者の「ああしたい、こうしたい」との要望に出来る限り添うように対応している。家族には個別に入居者の普段の様子を写真や文章で伝えており、居室での窓越し面会後は安心されるようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に運営会議を月1回開催している。週1回は代表者と直接、入居者の体調やご家族のご意見を細かくお伝えする時間を設け、運営に反映をしている。また、日頃より職員間での意見交換など行い、働きやすい環境作りに努めている。	管理者は毎週ホームの状況や入居者の現状を法人代表者にあげ、適切な助言を得て、ホーム運営に反映させている。また、月の運営会議には代表者も同席し、直接職員の意見を聞く機会をもっている。職員意見を吸い上げ、働きやすい環境を整えるよう努力しており、病気療養中にあっても安心して復帰できる体制づくりや、個々の働き方の希望にもできるだけ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月1～2回の管理会議や各種委員会等で代表者を含め運営や労働環境等について意見交換の場を設けている。各自が向上心を持って働ける様職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれのキャリアに応じた学びの機会を確立し、キャリアアップを法人全体で支援している。Zoom等ITを活用し研修を実施している。現場においても一人一人のケアを把握し、働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会や龍田校区介護事業所連絡会等に所属し、研修や交流が出来る仕組みにより、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期はできるだけ安心して過ごしていただける環境作りに努め、ご本人のご意見を尊重し安住の場となるよう心掛けている。常日頃より、良好な関係作りに努め、お話を傾聴するなど努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へも安心してお預け頂けるよう、不安や要望などご意見を頂ける関係作りに努めている。入居者お一人お一人がその方らしい生き方が出来るようご家族と一緒に支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方らしくお過ごし頂けるよう、必要な支援やサービス利用を含め、入念なアセスメントや良好な関係構築と安心してお過ごしいただける支援の優先度を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の残存能力(できる事)を活かし自立支援を意識し取り組んでいる。生活の中心は入居者であり、共に過ごすことで信頼関係を構築し、それぞれが生活の中で役割や楽しみを持って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族のかけがえのない関係性を理解し、ご家族との絆を大切に出来るよう心掛けている。こまめな近況報告やご要望を伺い支援に努めている。また、面会やラインでのやりとり(写真等)を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のこれまでに築き上げてこられた関係性が立ちきれない様支援に努めている。また、ご本人より見聞し、関係性の把握に努めている。	家族との面会は現在も窓越しで行っており、入居者の様子がよりわかるように居室前の掃き出し窓などを活用している。ホームでは入居者と職員の馴染みの関係性が出来ており、法人施設に異動となった職員を気にかけて、会いに行くなど入居者の思いに応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者同士楽しみや生活を共に過ごす良好な 関係を構築できるような支援に努めている。 お互いに声掛け合い、良好な雰囲気作りを 支援している。また、誕生会の開催や音楽 セラピー等、皆が参加出来るよう支援して いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁を大切にご本人・ご家族のお話を傾聴 し、引き続き関係性の継続に努めている。 サービス終了後もご家族との関係を大切に すると共に行事等のご案内をするなど経過 を見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人のご希望やご意向を汲み取る姿勢で 見落とすことのないよう努めている。また、 それらを職員間にて情報を共有し、ご希望 に沿った生活となるよう支援に努めている。 また、職員間においても思いや意向を把握 し話し合い支援に努めている。	入居者の意向は日々の関わりの中から聞き 取り、日常の支援やプランにつなぐようにして いる。ベッド中心の生活になられても短時間 でも入居者の中で過ごしたり、外気を浴びて もらうようにしており、これまでの暮らしぶり から推し量り、最良の方法を検討するよう している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	これまでの生活習慣や馴染の暮らしを可能 な限り継続出来るよう支援に努めている。ま た、事前情報や日々のコミュニケーションに てこれまでの暮らしが続けていけるよう職員 間で情報共有し支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の記録を24時間表を活用することで食 事・睡眠・排泄・余暇の過ごし方・リハビリ などを時間軸として記録している。日々の変 化など特記の確認などご本人の出来る事を 日々の生活の中での気づきに努め職員間 での情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや意見を汲み取り、より良い生活を営んでいただくための支援に努めている。課題解決に向けたカンファレンスでは、ご家族の意向も踏まえ介護計画の立案や実践を行っている。また、主治医の意見を反映させるようにしている。	入居者の思いをホームでどう具体化するのかなどケース会議で出された意見や家族の意向を反映したプランを立案している。入居間もない方のアセスメントから、入退院後の施設移動などによる不安な思いに寄り添い、まずは安心してここでの生活に馴染んでもらうことや、疾病への対応や進行防止をあげている。初回プランは1か月後に評価見直しをおこない、現状に即した内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙については24時間表を活用し、個々の生活状況や身体状況を記録している。 日々の様子やケアの実践、気づきや工夫を記録に記入し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族にとって必要なニーズについて、柔軟に対応出来るよう職員間で協力・連携し多方面から検討対応に努めている。本人や家族の状況応じに柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人が地域住民の一人であるということを理解し、地域に開かれた施設運営に努めている。 本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう、地域資源の把握や支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診、必要に応じて受診支援を行っている。また、ご本人の生活上の困りごとも含め、主治医と相談し、プランに反映させている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、協力医療機関による訪問診療や、月1回家族と受診に出られる方もおられる。職員は入居者の表情や動き、食事や排泄など日々の関わりから異常の早期発見に努めている。また、医師である法人理事長は定期的にホームを訪問し、一人ひとりと会話をしながら健康状態を確認しており、入居者も楽しみにされている。時にはお茶を飲みながら健康チェックを受けている。歯科については訪問により必要な治療、口腔ケアが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理に留意し、都度看護職と連携しケアに努めている。介護職員と同様に日々の関わりから常時、連携・相談が出来る体制を整えている。看護師及び介護職相互で入居者の変化や気づきに細やかに情報共有しケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携に努め、良好な関係作りに努めています。また、ご家族や医療機関の担当医や連携室との情報共有や連携により、早期退院支援がスムーズにできるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご家族のご意向を十分に伺い、対応方法などご家族や主治医と連携を図れるよう体制を整備し、チームケアで支えることができるよう努めている。入居者の心身の状態、状況に応じご本人ご家族との話し合い意向を確認し方向性を共有している。	重度化・終末期支援については、本人・家族の意向を十分確認しながら主治医、家族、職員が連携し行うこととしている。支援については看取りプランを作成している。この一年で一人の最終を支援した際は、夜間の時間であったが、主治医も来訪されたことに感謝を語っている。コロナ禍にあったが対策を施し、家族の面会時間も持たれている。支援後は本人を偲びながら、振り返りの機会を持っている。	カムさあに出来る最良の支援が継続されていることが窺えた。現在特養を申し込まれている方、ホームでの最終を望まれている方がおられる。その方らしい日常の支援に今後も変わることなく努めていかれる事を願いたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故などの対応について、連携や研修を行い、対応出来るよう努めている。しかし、全職員が緊急時などの対応においては実践力に不安もある。今後も定期的な勉強会や学びの場を設け、不安解消を行いたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や地域との連携を図り、対応出来るよう努めている。防災意識を全職員で持ち、定期自己点検や屋外の環境整備に努め法人内でも災害対策委員会を開催し災害時への準備と意識の向上を図っている。	避難訓練は昼・夜を想定し実施している。全職員が防災への意識を持ち、コンセントの埃などを含め定期自己点検やホーム周辺の環境整備に努めている。また、法人内でも災害対策委員会を開催し、災害時の備えや意識の向上が図られている。昨今の自然災害は想像を超えるものであり、被害の恐ろしさや復興の途中にある地域などへも思いを寄せている。	感染症の状況を見ながら、地域の協力を得た訓練の再開に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムや習慣等を尊重し、その人らしく暮らせる支援を心がけている。入居者への尊厳・尊重の気持ちで関わらせて頂いている。不適切ケアへの対応も勉強会の機会を設け、全職員で環境整備に努めている。	呼称は苗字や下の名など家族にも確認しながら対応している。一人ひとりの生活習慣などを理解し、その人らしい暮らしを支援している。尊厳を含め不適切ケアについては、法人施設長による研修をオンラインで受けている。身だしなみやおしゃれについては、家族の協力を得ながら取り組んでおり、化粧品（乳液・化粧水など）の使用や入浴後やオムツ交換時の保湿に努めている。髪は施設的なカットにならないよう、カット中も嬉しそうにされているか等、表情を見ながら進めてもらっている。	管理者は重度化され休まれている方の“寝姿”にも配慮する事が大切であるとし、全職員が同じ気持ちを持って日々のケアに取り組んでいる。ホームの姿勢が伝わってくる。変わらぬ支援が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がやりたいこと等伺いながらサポートし支援を行っている。ご本人が気持ちを出出来るように、ケアの在り方を表情や言葉に留意し寄添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応やケアの実践を行っている。心身の安定を保つため、できるだけ規則正しい生活をベースに支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択出来るよう希望を伺い、難しい場合はご家族との関りの中でその人らしくなるよう工夫している。理美容での好みの髪型や入浴後のスキンケアなど気を配っている。身だしなみはその人らしさであると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で制限もあるが、出来る事可能な事を工夫しながら実践している。食事は楽しみの時間でもあることを理解し、個々の能力や好みに合わせた提供の工夫・支援を行っている。	食事が楽しみの一つとなるよう、献立への工夫や食形態も個々に応じて提供している。食の進み具合も一人ひとり異なる事から、自力摂取の方や介助が必要な方にも焦らずゆっくり摂ってもらえるようにしている。また、敷地内の庭を使ってバーベキューやテラスでの茶会など恒例となっている。昼食は共生社会の実現を目指し、障がい者施設に委託しており、建物内厨房で調理されている。入居者が食に関わる機会は難しくなっているが、献立へのヒントや味の評価をはじめ、出来得ることを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を記録へ残し、一日のカロリーが不足しないよう努めています。食生活は、健康維持の基本であり、栄養のバランスを考慮した食事の提供を行っている。十分な栄養が摂れていない方は個別で高カロリー飲料などの工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力可能な方は洗面所にて歯磨きを実施。常時口腔内の確認を行い、必要に応じ歯科往診につなげるなど口腔ケアの必要性を理解し支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。可能な限り、トイレでの排泄が行えるよう支援を行っている。トイレで排泄できることが、生活への意欲や尊厳の保持に繋がると考えている。	トイレでの排泄は生活への意欲や尊厳に繋がる事を全職員で共有しながら、把握した個々の排泄パターンを活用し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。トイレやポータブルトイレは清潔に管理することで気持ち良く排泄できている。ポータブルトイレは居室への配置であり、臭気に気を配り本体ごと日光干しされている光景が見られた。排泄用品も昼夜で適切なものを検討し、オムツ交換の際は、特にプライバシーに配慮し本人が安心される交換方法で行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに促し、便秘予防に努めています。必要に応じ腹部マッサージなど自然な排泄を促せるよう支援に努めている。また、レクでの体操も便秘解消を意識した内容とするなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴を楽しんでいただけるよう事前にお知らせを行い、ご本人が納得のもと入浴を行っている。入浴をより楽しんでいただけるよう入浴剤やBGMの活用等工夫をしている。また、足浴をしていただくなど、くつろいだ気分の提供に努めている。	基本的に週2回の入浴を支援し、安心して楽しんでもらえるよう事前に伝えている。重度化された方には職員が2名体制でゆっくりとサポートしている。気分を変えて入浴剤を使用したり足浴用器に造花を浮かべる等職員の工夫が聞かれた。脱衣所や浴室は整頓や掃除が徹底され、広さもある事からその時に応じた室温で調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して入眠できるよう日中の活動を行っている。希望や状態に応じ臥床支援を行っている。また、年齢や体力を考慮し、お昼寝を取り入れ疲労回復にも努めている。天気の良い日は寝具を干して安眠の提供に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個々のお薬の種類や効能を理解できるよう毎食後のお薬セット用紙に記載しており、声出し確認を行いながら確実に服用して頂ける様支援をしている。配薬時も一人ずつ確実にお渡しするなど誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみなど入居者自ら率先して行って頂いている。また、お天気の良い日など屋外の散歩なども楽しんで頂いている。個々の性格や趣味・嗜好など理解し、役割や楽しみを活動内容に活かせる様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出支援が難しい状況もありますが、テラスや建物外に出て気分転換などして頂ける様支援を行っている。地域行事も可能な範囲で参加し、社会とのつながりを感じていただける支援を目指している。	感染症への対応から地域行事への参加を含め、外出は難しい現状であり、敷地内の散歩やテラスに出て外気浴やお茶の時間などに努めている。テラスで育つぶどうは毎年実をつけ、その成長や収穫を楽しみにされている。居室での生活が中心になられた方にも、職員は季節の話や庭先の様子などを伝えていく。家族も一緒に散歩したり帰省など楽しみにされており、感染症の早い終息が待たれる。引き続き敷地内やテラスを活用して外気に触れる機会を持っていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持・管理はその方の尊厳にも通じます。個々の能力を理解した上で、ご本人やご家族・施設との話し合いで、所持・管理ができる方については、入居者に所持・管理してもらっている。欲しいもの必要なものなどご家族とも相談し、購入の調整支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な方に対する気持ちを理解し電話や手紙でのやりとりの支援を行っている。友人や家族と定期的に連絡をとって声を聞いて安心されている。また、贈り物など届いた際は、ご本人よりお電話して頂くなどお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	WCにはエアコンが設置されており、冷えない様適度な温度でご使用いただいている。また、季節の花や植物を飾ったり、季節を楽しんで頂ける様工夫している。清掃、消毒等で日々清潔を保ち快適に過ごしていただくよう努めている。	ホーム内は掃除が行き届き、庭先に咲いたものや職員が持ち寄った草花により、常に季節感のある環境が保たれている。また、廊下にはイベント時や日常の光景を写した写真、隣接する放課後等デイサービス児童の作品などが掲示され、入居者も足を止め眺められている。食事や体操など日中活動の場であるリビング食堂は、感染症や入居者の身体状況に応じてテーブルを配置している。目配りと気配り、優しい介護に努める職員自身も居心地の良さにつながっている。	廊下に掲示された写真や作品など感染症終息後は、家族や運営推進会議メンバーなど改めてゆくり見ていただきたい内容である。変わらぬ取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間であるため、個々に居心地の良い空間づくりを心掛けている。共有空間の中で利用者同士で思い思いに過ごせる様工夫にも努めている。季節の物や個人の好きなものを配置。リビングでは音楽・テレビ等楽しんで頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの写真の掲示や寝具の利用など、居室は使い慣れた物や好みの物を活かして居心地よく過ごせる様工夫している。落ち着ける居室づくりは生活の質を高める事と考えプライバシーが保たれる居室空間に努めている。	使い勝手の良い広さの居室には、本人のこれまでの趣味の品やお気に入りの衣類をはじめ、心の拠となる家族の写真、家族が投稿された新聞記事なども掲示されている。どの部屋からも家族の思いが伝わってくる。居室は掃除や換気が行き届き、特にベッド下やベッドふちなど細かい所まで職員は意識を持って手入れを行っている。重度化され居室での時間が中心になられた方については、家族への十分な説明と納得のもと、目が届きやすい一角に移動してもらい、スピーディな対応ができるようにしている。	入居歴の長くなられた本人、家族にとって慣れ親しんだ居室の移動は、不安や淋しさを感じられたようである。管理者は丁寧な説明を重ね、家族の思いに応えるケアに全職員で臨んでいる。今後も一人ひとりの入居者にとって居心地よく過ごせる居室環境に、家族と一緒に努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人のできる力をまず理解し、その方にとって分かる・できる工夫をしている。歩行器や手すりを使用し、安全に移動等出来るよう。また、建物・設備・生活動線を考慮し自立した生活が送れる様努めている。		